

景気動向調査

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

1 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

2 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

3 調査期間

平成28年8月1日(月)～15日(月)

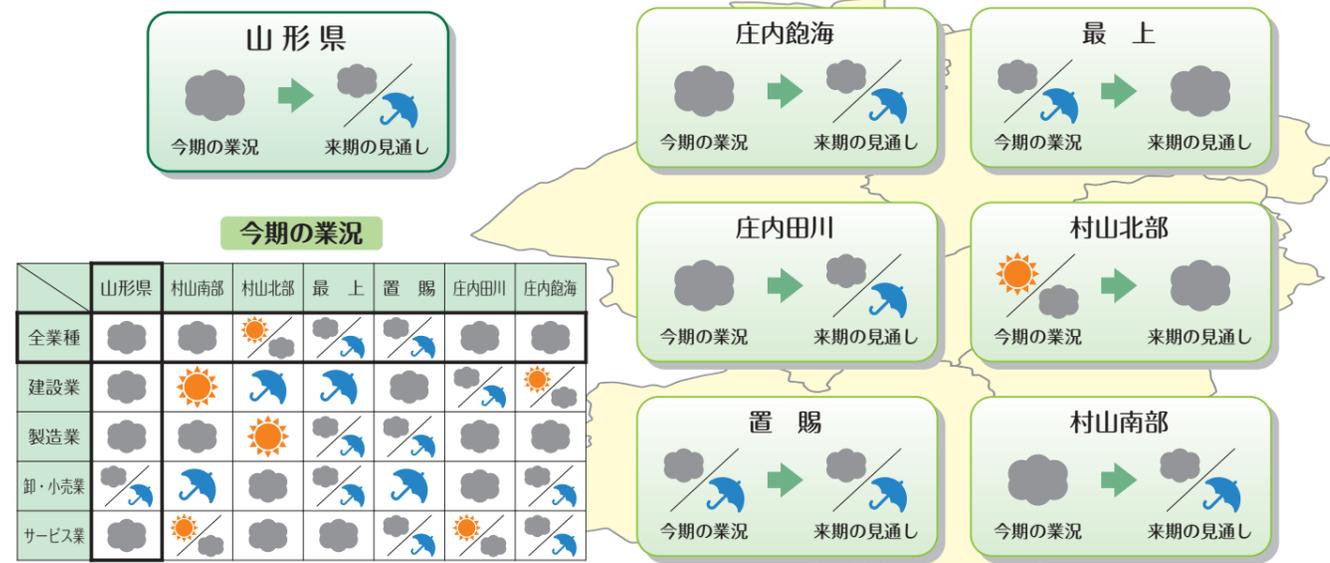
4 サンプル概要

アンケート対象企業 山形691社、秋田638社
有効回答数 山形457社、秋田411社
回答率 山形66.1%、秋田64.4%

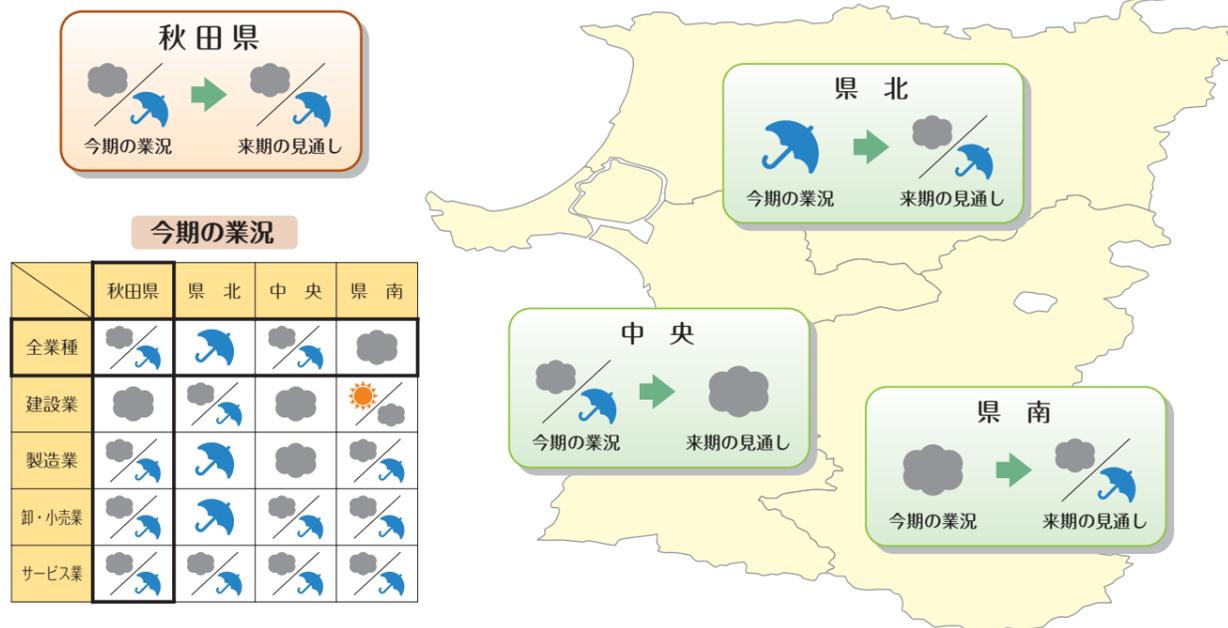
特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI≥30	30>DI≥10	10>DI≥▲10	▲10>DI≥▲30	▲30>DI

景気天気図

第48回「山形県内企業の景気動向調査」



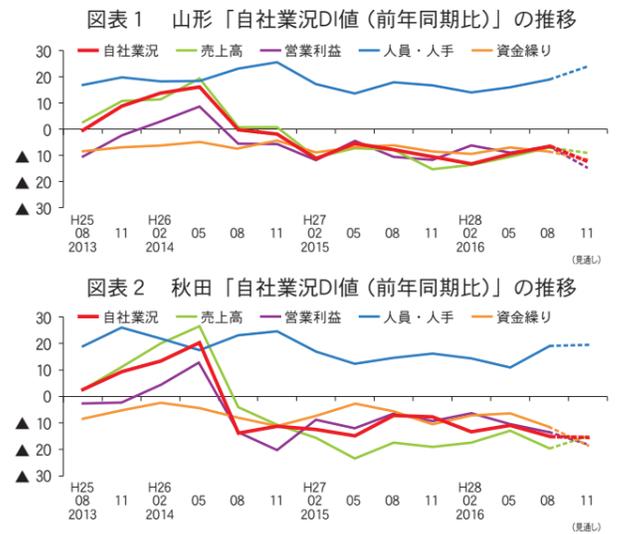
第21回「秋田県内企業の景気動向調査」



▶ 自社業況の動向

山形県の業況は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲6.3(前回調査比3.3ポイント上昇)と小幅ながら2期連続で改善した。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「資金繰り」が若干悪化したものの、「売上高」「営業利益」「人員・人手」が改善となった。

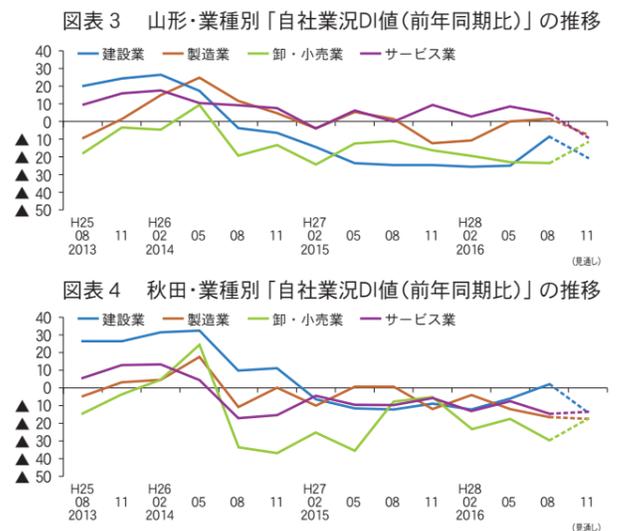
秋田県の業況は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲15.1(前回調査比4.1ポイント下落)と2期ぶりに悪化となり、足踏み状態が続いている。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「人員・人手」が19.0(前回調査比8.9ポイント上昇)と改善し不足感を強めた一方、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目はいずれも悪化となった。



▶ 業種別の動向

山形県の業況(前年同期比)を業種別にみると、卸・小売業ではほぼ横ばい、サービス業で悪化となったものの、建設業と製造業で改善となっている。製造業ではDI値が4期ぶりにプラスに転じた。

秋田県の業況(前年同期比)を業種別にみると、建設業は2期連続で改善し、7期ぶりにDI値がプラスに転じた。一方で、製造業、卸・小売業、サービス業ではいずれも悪化となった。



▶ 地域別の動向

山形県の業況(前年同期比)を地域別にみると、最上、置賜、庄内飽海で悪化した。村山南部、村山北部、庄内田川で改善となった。庄内飽海ではDI値が2期ぶりにマイナスに転じた一方で、村山北部では9期ぶりにプラスに転じた。

秋田県の業況(前年同期比)を地域別にみると、県北、中央、県南のすべての地域で悪化となった。このうち県北では2期連続の悪化となった。

